

古墳の終焉

9月号でも紹介しましたが、7世紀になると古墳は小型化していきます。そして7世紀後半になると、市内では古墳は築かれなくなってしまう。

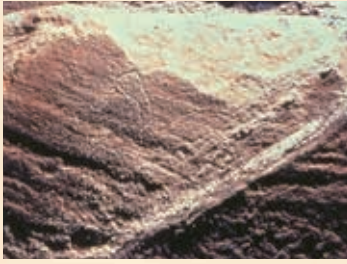
恐らく6世紀末ごろ以降国家体制が整えられる中で、何らかの政治的規制がされるようになり、それと共に古墳を築く意味合いが薄れていったと推測されます。そして、大化2年

(646)制定

地蔵塚古墳



線刻画(水鳥)



とされる大化の薄葬令の影響などもあって、古墳は築かれなくなるようです。市内で最後に築かれたと推測されている古墳が、藤原町の地蔵塚公園の一角にある県指定史跡地蔵塚古墳です。地蔵塚古墳は、八幡山古墳などと同じ若小玉古墳群に属する古墳で、7世

紀中ごろに築かれた古墳と考えられています。昭和37、38年に発掘調査と復元工事が行われ、その結果から高さ4.5メートル、一辺28メートルの墳丘を持つ方墳で、周囲には周堀が存在していると考えられています。周溝の存在や墳形については異論があり、未確定です。石室は安山岩の切石で構築された胴張り型の横穴式石室で、奥壁と天井石は緑泥片岩の大きな一枚石を用いています。

この古墳の最大の特徴は、石室の左壁、右壁、奥壁に東日本最古の線刻画が描かれていることです。発掘調査で線刻画が確認された当初は、人物7人、馬1頭、家かと思われるもの1棟、動物らしきものが重複して描かれていた他、舟に乗り権を持った人物、水鳥などが確認できたようです。

しかしながら、発見当時から摩滅が激しく、その後さらに劣化が進み、現在では人物1人、馬1頭、舟に乗り権を持った人物、水鳥以外は不明瞭になってしまっています。

このため、昭和59、60年度に保存工事を行い、現在は非公開となっています。なお、11月19日(水)に実施予定の「行田の古代史跡・文化財をめぐる」の際に見学しますので、興味のある方はぜひご参加ください。

(文化財保護課 中島洋一)

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこせにちゃんが分かりやすく紹介します。



こせにちゃんが行く!

行田市菊花展

昭和49年に行田市の花に指定された「菊」。今月は、見事に咲き誇る菊を展示するイベント「行田市菊花展」を紹介するよ。

菊花展は、10月下旬から11月上旬にかけて行われる催しで、市民の皆さんが丹精込めて作った厚物や管物など特に素晴らしいもの約400点を郷土博物館前で展示しているんだ。しかも、全ての作品を目の前で見る事ができるよ。「菊」は秋を代表する花。秋の訪れを感じながら、色鮮やかですてきな菊を見に来てくださいね。

今月の表紙

10月8日、総合公園自由広場で第60回連合運動会が開催されました。

この大会では、100メートル走や60メートルハードルなどの個人競技6種目と400メートルリレーが行われました。入賞を目指して、それぞれの競技に全力で臨んだ各小学校の代表選手たち。仲間からの声援を力に変え、日ごろの練習の成果を思う存分発揮していました。

市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。

市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

市報をCD-Rに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています